令和７年６月３０日（月）
第８６１号
さいたま市立日進小学校
TEL：６６３－６９４２

学校だより

こだま

校長　鈴木　晴雄

梅雨の晴れ間の太陽は真夏の輝きを見せ、プールでは水しぶきがあがり、子どもたちの笑顔で溢れています。１学期も残り１４日。１学期も学校、そして子どもたちを支えていただき、深く感謝申し上げます。

先月は「いじめ撲滅強化月間」。本校でも「いじめ防止基本方針」に基づき、スクールロイヤーによる特別授業、「いのちの支え合い」を学ぶ授業、道徳教育や朝会等によるいじめ防止の取組、「心と生活のアンケート」の見取りによるいじめの早期発見等に取り組んでおります。また、生活目標「思いやりのある言葉を使おう」とのつながりを強く意識した取組として、代表委員会が「ストップいじめキャンペーン」を展開してくれました。全校の合言葉として「ありがとう」「大丈夫」を設定し、代表委員会の児童がプラカードを持ちながら、1週間校内で呼びかけてくれました。また、各学級が作成した２５個の合言葉は、緑の葉っぱとともに木の幹に生い茂り、各昇降口に掲示されています。そのうちのいくつかをご紹介します。

１年生「大丈夫？　困っていたら　助けるよ」
２年生「いいね・上手・頑張ろう　ほめほめ合って　みんなでレベルアップ」
３年生「ふわふわ言葉　みんなの心　ピッカピカ」
４年生「ありがとう　みんなに言おう　いい言葉」
５年生「感謝　励まし　いいとこ見つけ」
６年生「大丈夫　一人じゃないよ　みんないる」
しいの木「大丈夫？　ゆっくりちょっとずつ　やっていこう」

さて、子どもたちは、学校や家庭・地域で、どのような言葉づかいをしているでしょうか。子どもたちの生活場面で、トラブルになる大きな原因の１つに、言葉づかいが挙げられます。何気ない一言が相手を怒らせたり、不愉快な思いをさせたりして、けんかになることが多いようです。たった一言で人は傷つき、たった一言で人は笑顔になります。自分が優しく話しかければ、相手も穏やかに返してくれます。自分が傷つける言葉を発すれば相手は傷つき、見聞きしていた周囲の人たちも嫌な気持ちになってしまいます。もちろん自分も傷つくことになるでしょう。言葉は、人から人へ「こだま」します。

言葉は相手と仲よくなったり、自分の思いを伝えたりする、素晴らしいツールです。あたたかく優しい言葉を使えば、お互いの気持ちが響き合い、まさに「こだま」するのです。一方、私たち大人は、子どもたちの心を癒やしたり、前向きになったりするような言葉がけをしているでしょうか？大人は子どものモデルです。まずは私たち大人が、あいさつや言葉づかいについて、考えていく必要がありそうです。

人は、人に優しくしてもらうことで、優しさを学んでいきます。優しくしてもらった子どもは、同じことを周囲の人たちにもするようになり「こだま」していきます。
日進小学校に、あたたかく優しい言葉が、「こだま」のように響きますように。
学校・家庭・地域、そして社会が、あたたかく優しい言葉で溢れますように。